

縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

128



第68回(2015年度)縣陵祭
BURST
～はじける青春～



02 本年度役員あいさつ

04 松本県ヶ丘高等学校 PTA総会

06 平成27年度 PTA年間スケジュール

08 学年づくり

10 進路指導室より 「ちょっと横道にありますが」

11 生活指導係より 「大人の責任で」

12 平成27年度 部活動報告 長野県総合体育大会結果／活躍する縣陵生

14 私の青春時代 vol.7 「縣陵との不思議な縁(今が青春?)」

15 縣陵百景 ～校長室～ 校長先生にインタビュー

16 縣陵百景 ～その②～ 縣陵プールの七不思議



本年度のPTA活動について

PTA会長 野村 雄二郎



本校のPTAは、高校のPTAとしてはこれまでとても活発に活動をおこなってきました。各行事には大勢の皆さんのご参加もいただけてきました。こうした良いところを大切にしつつ、子ども達のためにPTAとしてできることは何なのかを今年1年間をかけて考えていきます。PTA活動に正解は無く、その時々に合わせて変化させていくことが大事だと思います。会員の皆さんからもご意見をいただきながら、考えていきたいと思っています。

子ども達にとって高校の3年間は将来の方向性を決める時期になります。子ども達には、自らの将来を自らの意志で決めてほしいと思います。そのために我々保護者は、子ども達からは一歩ひいたところで見守ってあげるのが良いと考えます。PTA活動も同様です。子ども達からはちょっと距離を置きな

がら、でも子ども達のことを考えながら、そして大事なことは楽しく活動に参加できる。そんなPTAを目指していきたいと考えています。

先日、新聞記事でPTA活動を集めたものがあり、その中でPTA活動は必要かどうかというアンケート結果が掲載されていました。結果は半数以上の回答が不要というものでした。私は、PTAとは、料理の調味料みたいなものだと思っています。ただ栄養を取るだけなら不要ですが、それがあって料理を美味しくし、食事を楽しくしてくれます。それと同様にPTAがあることで学校生活を豊かにし、親として学校に関わる楽しさを与えてくれると思います。

皆さんのお力をお借りして、PTA活動を盛り上げて行きたいと思っています。

自立を促すということ

校長 永原 経明



保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

私は着任当初、縣陵生は、全体としてどのような生徒たちなのか？という問いを抱いていました。しばらくして縣陵生は、素直、真面目、努力家の3つの言葉に集約されるのかなあと感じました。2ヶ月程経過した今はそれらを土台として、更に主体性、精神的な強靱さ、自立心を伸ばしていくことが将来につながるのではと期待をしています。

近年、高校生や大学生の親への精神的依存度が年々高まっており、精神的自立が遅れてきているという研究結果があります。教師にしても親にしても、隅から隅まで彼らを支えようとすることはベストではなく、自立につながるように意識的に関わったり、成長

に応じたサポートをすることが求められているのです。時には、関わりが子どもの自立を妨げていないかを見返すことも必要かもしれません。

とは言え、彼らは、子どもでもなく、大人でもないという微妙な時代の真っ只中。人生について、自分自身について、進路について、自問自答する多感な時期にいます。時には、助言をしたり、支えたりすることも必要でしょう。自立を促しながら、時には支えること、これを臨機応変に行なうということは、意外と智慧がいりそうです。少なくとも日頃より、子どもを観ていないとできないことなのかもしれません。

子どもの幸せとは、自立できる力をつけることです。この自立への力を大いにつけるために多様な学びを県ヶ丘高校でして欲しいと思います。そのために、授業、生徒会や部活動などの質

を高めていくことが学校側の使命だと思います。私から見ても、本校の先生方は休むことも厭わず、本当に一生懸命やっております。

これからも、保護者の皆様と協力をしながら、よりよい学校にしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

生徒共に「総力」

生徒会長 梨子田 次郎

縣陵では様々なことができます。そして、ここにはそれらを行うのに適した環境があります。

英語科を通した国際交流や初代校長の小松武平先生からずっと受け継いでいる文武両道精神、そして5000人を超える規模の来場者数を誇る縣陵祭を作り上げる過程で豊富な経験を得られる生徒会活動など、縣陵では勉強のみならず沢山のことを学べます。

こんな素晴らしい学校で楽しい仲間と勉強できることを幸せに思います。そして、自分がこの学校で1年間という時間を生徒会長として多くの生徒と

共に「総力」というスローガンのもと生徒会活動を行えることを誇りに思っています。

縣陵生として、また縣陵という素晴らしい学校の生徒会長として過ごせるこの1年間を楽しみたいと思います。



今年の縣陵への思い

PTA副会長 忠地 祐一

PTA活動を参考にしながら改善に取り組んでいきたいと思っています。

生徒さんたちも学業のほかに縣陵際をはじめ部活動等大変充実した生活を送っています。大変絆の強いこの学校で、生徒たちや先生方、同窓会の方々、また同じ親同士の関係を深めて、縣陵を盛り上げていきたいと思っています。



縣陵のPTA役員も2年目となり、PTAの活動や学校の様子もだいたいわかるようになってきました。1年を通じ様々な事業や会合等に参加した中で、生徒たちや先生方の素晴らしさもわかりましたし、PTA活動に関わる保護者の方のひたむきな姿にも感動しました。他方でPTAの課題も理解することができました。

年は内容の濃い事業に取り組みながら、できるだけ多くの保護者の方々に少しでも縣陵との関わりを持っていたくようにできればと思っています。また本校の課題についても、他校の

母校のPTA役員となって

PTA副会長 岩垂 彰

私が県陵を巣立ってから30年の月日が流れました。卒業30年で「母校愛のリレー」を展開したちょうど今年、母校のPTA役員となる幸運に恵まれました。

私が在学していた頃とは、時代とともに様々な変化が県陵にはあると思います。変わってはいけないもの。変わっていかないといけないもの。県陵PTAは、「県陵らしく」皆さんとともに活動していきたいと思っています。

学校のこと、教育のこと、組織の運営のこと…。何事も、好奇心を持って楽しく関わっていけたらいいと思います。



P(パット)、T(楽しく)、A(集まろう) みなさん、よろしくお願いします。

平成27年度PTA、 爽快に出航



平成27年度PTA総会が、本校大体育館で5月23日(土)に開催されました。総会に先立って、今年度の新企画として本校ダンス部2・3年生によるエネルギッシュなヒップホップダンスが披露されました。そのおかげで今年は総会に約300名もの会員の皆さんの参加があり、また、総会も爽快にスタートしました。

総会冒頭では渡辺PTA会長と今年度本校校長に着任された永原校長が挨拶、渡辺会長は「学校行事やPTA活動などへの参加を良い機会として学校や生徒の様子を矢口っていただきたい。」と、永原校長は「素直で向上心のある県ヶ丘高校の生徒たちの潜在的な能力を伸ばすためにも学校は保護者との対話を大事にしていきたい。」と述べました。

①事業報告・会則改正提案 ②決算報

告 ③会計監査報告について、いくつかの質疑応答を経て承認されました。また新年度役員として会長野村雄二郎(前副会長)氏他、推薦された全役員が承認されました。

新会長に就任した野村会長は「平成27年度は今までのPTAを見直す1年にしたい。将来の方向性を決めていく大事な3年間を過ごす子どもたちのために何ができるかを考えるとともに、楽しく参加できるPTAになるようにしていきたい。」と抱負を述べました。

引き続き新年度事業計画(案)、予算

(案)の説明、質疑応答後承認されました。議事の最後に渡邊旧会長へ、3年間に亘る本校PTA活動への貢献に対する感謝状と記念品が贈呈されました。

議事後生活指導担当の武居先生から「県陵生活について」、進路指導担当の石田先生から「今春の大学入試結果と今後の進路指導方針について」のお話をいただきました。

総会終了後、PTA親睦会及び歓送迎会が松本東急REIホテルにて行われました。



6月5日 PTA臨時理事会

PTA総会での、予算編成に関する指摘を受けて、臨時理事会が開催されました。予算規模に比して、繰越金が多いということから、今年度教育環境整備に特別支出することになりました。県陵には施設改善の課題は山積していますが、なかでも、同じ教室でも天井に扇風機のある教室とない教室が存在すること。全体に傾き、建物全体が歪んでいる合宿所の補修などの問題があります。まずは、この2点の課題に予算を充当することに決定されました。



1学年 PTA

自分と向き合って、 うちからわき出る力を大切にしよう

進路指導主事 石田 □□先生



1学年の講演会では、進路における自分の目標に向かう姿勢について、先生の友人の例を参考にお話があった。

結果的には、「なんとかしてここに行きたい」「こうなりたい」という強い気持ちが大切である、という事だそうだ。

人間が変わる方法としては2つある。1つは、外からの強制力、もう1つは内側からのなんとしてもやりたいことを目指す内因性。特に2つめは曖昧な気持ちではやる気に繋がらない。いろんな経験を積むことも大切だと。

「理解、納得を暗記よりも大切にする」「何度も反復して自分に染み込ませる」といった当たり前なことを当たり前にすることの重要性を指摘され、県陵生は「とにかくここまで頑張ろうというラインを本当の限界よりも悠に手前に引いている」という指摘もあった。「もっとできる、成長や前進感を感じる毎日を大事にしていって欲しい」と希望を述べられた。

一番近くにいる親としていろんな経験をさせ、それが子どもの自信、見方へと導いていくよう、見守り応援していきたいと思った。

2・3年合同 PTA

保護者のための進学お金講座 ～お金はタイミングが命～

ファイナンシャルプランナー 三上 尚子先生

5月の進路講演会は、2・3学年合同で本校大体育館にて行われました。進学に必要なお金の現状に加え、奨学金制度や教育ローンのことを中心に講演してくださいました。

進学に必要なお金は大きく分けて2つだそうです。

- ①受験、入学時の費用(約100万円)
- ②進学後の費用(1年間で約200万円)

私たち保護者も頭の痛くなる現状ですが、対策として、いくつかの奨学金制度、教育ローンを紹介していただきました。申し込みのタイミングや注意点の話で

は、メモをとる保護者の姿が見受けられました。

最後に、「お金はタイミングが命」という言葉が胸に響いた講演会でした。

参加者の声

- 子供もお金のことを心配している。すごくお金がかかるのだと心配だったが、奨学金を上手に使っていけばいいということがわかった。
- 注意点を知れたことが良かった。
- 勉強になった。
- 上の子供のときは、受験時に宿泊代、受験料とお金がかかった。





4月	4日 入学式
	14日 第1回 理事会 評議員会
5月	23日 PTA 総会 進路講演会
	29日 中信地区高等学校PTA 連合会総会 松本県ヶ丘高等学校 連絡協議会
6月	11日 長野県高等学校PTA 連合会総会（長野市）
	27～28日 縣陵祭（一般公開）
7月	9～10日 北信越高等学校PTA 連合会研究大会
	24日 PTA 会報発行 128号
8月	20・21日 全国高等学校PTA連合会研究大会（岩手県）
9月	5日 学習環境整備事業 学校周辺整備
	12日 学年PTA
10月	16日 強歩大会
	中旬 『教育条件整備』に関する署名運動
11月	下旬 三校PTA 連絡協議会（縣陵 須坂 屋代）
	14日 PTA 研修旅行（早稲田大学視察）
2月	18日 第2回 理事会 評議員会
	下旬 PTA 会報 129号
3月	4日 卒業式

活動とは元気よく働くこと

総務委員長 進藤 由美子

自転車通学指導の補助活動を予定しています。交通事故は、被害者にも加害者にもなりかねないため、生徒には安全に留意して通学するようにしていただきたいです。

また10月の強歩大会運営協力におきましては、大勢の保護者ボランティアを9月に募集します。私は、縣陵生ってどんな感じなのかな…という好奇心から2回参加しましたが、生徒の頑張る姿を見ることがや保護者の方々との交流など貴重な体験ができました。縣陵生を見る絶好の機会ですので、ぜひ皆様のご協力をお願い申し上げます。



今年の広報委員会

広報委員長 井ノ口 美佳

平成27年度の広報委員会の活動は、PTA会報128号（7月発行予定）・129号（2月発行予定）を計画しています。本年度役員のあいさつをはじめとして、PTAの年間スケジュールや、学校行事等をわかりやすく説明し、会員の皆さまに読んでいただけるように楽しくわかりやすい会報を目指します。広報委員会の全委員でアイデアを出しながら作っていきたいと思っています。



地区交流委員会の活動

地区交流委員長 岡村 充恵

地区交流委員会の主な活動は、地区PTA開催に関する活動とPTA研修旅行の企画、運営です。地区PTAは住んでいる地域に近い場所で学校と触れ合う機会を設けること、また、地域毎で行うことにより子どもたちの学校での様子や進路に関する事などを直接先生からお伺いして保護者の方により深い関心を持っていただく絶好の機会です。

また今年のPTA研修旅行は11月14日に早稲田大学を訪問し、キャンパス見学、OB・OGとの懇談会を予定しています。大学生の生の声を聞くことができる貴重な機会ですので、PTA会員の皆様は是非ご参加ください。



認知的不協和 3学年 主任 唐澤 等



私喫煙者Aは煙草を吸う（認知1）。煙草を吸うと肺ガンになりやすい（認知2）。喫煙者Aは自分自身に矛盾を感じ、認知1と認知2の矛盾を解消しようとする。認知1を、私喫煙者Aは禁煙する（認知3）に変更すれば、認知2と認知3はまったく矛盾せず、メダタシメダタシなのだが、世の中そうはうまくいかない。禁煙という行為はなかなか難しく、認知1を変更するのは困難が伴う。そこで、認知2を変更しようと試みる（世の中の多くの人がそうである）。例えば、喫煙者が必ずしも肺ガンになるわけではない（認知4）。あるいは、交通事故で死ぬ確率のほうが高い（認知5）、などである。これらはアメリカの社会心理学者レオン・フェスティンガーが1950年代に提唱した「認知的不協和理論」で

あり、人間は認知1と認知2の矛盾（これが認知的不協和である）を低減あるいは除去しようと、なんらかの圧力を起こすと、主張した。

この理論を受験生に応用してみよう。私受験生Aは勉強が嫌いであり、模試の成績も伸びない（認知1）。有名大学と呼ばれる大学に現役で合格したい（認知2）。認知1と認知2の間には明らかな矛盾がある。認知1を変更し、これから受験勉強に励む（認知3）、となればよいが、受験生の中には認知2を変更しようとする者がいる。例えば、なんとか簡単に推薦入試で合格できないか（認知4）、受験科目の少ない大学はないか（認知5）、さらに、専門学校でもいいか（認知6）などの変更を試みる。でもこれは明らかな「逃避」。そんなヤワな生徒を育ててきた覚えはない。心の弱さは誰もが持つものだが、本校の三大精神の如く、後半の認知1を認知3にすることによって認知的不協和を解消してもらいたものだ。

進路 3学年 PTA会長 山崎 浩明



先日、進路担当の先生が、昨年企業に就職した卒業生に触れ、「大卒だと就職が難しい会社で活躍するのも良い」との話。偶然、私はその会社の社員。その会社、就活の際大卒のエントリーは数万に及び確かに難しい。だが、はたしてそんな会社で活躍できるのだろうか？実はその会

社、昇格の際大卒も高卒もすべて同じ試験で選別され、昇格すれば当然待遇は同じ、当然それぞれ紆余曲折はあるがチャンスは平等なのです。毎年数名が市内の高校を卒業して就職するが、みんな明るくて優秀。それが縣陵生ともなれば、ぜひ私の部下に欲しいくらい。もしかすると、その卒業生は非常にいい選択をしたのかもしれません。なにせ社長も、昔は縣陵生でしたし…。

その一歩先へ 2学年 主任 所 省三



「クラス替え」をして三ヶ月が過ぎました。四月には新二学年全体での「リトルワールド遠足」があり、六月には新クラスで力を合わせて取り組んだ「クラスマッチ」、そして最大行事の「縣陵祭」がありました。新しいクラスはいかがですか。講座での授業も軌道に乗り、クラスの枠を超えた仲間作りが確実に進んでいることでしょう。

一般的に「中弛みの学年」といわれる二学年ですが、実はそんな表現が全く当てはまらないほど忙しい一年間なのです。部活動、生徒会活動の中核となり、様々な意味でこの縣陵を背負って立つ存在になる大切な年。進路や学習活動も一層忙しくなります。まさに「文武両道」の充実した生活が求めら

れるのです。まずは何事にもじっくり取り組み、その一歩先を目指す意欲・行動力が大切になります。

進路ではこの夏、全員が「大学インターンシップ」に取り組めます。この前向きな活動を通して、各自の夢を具体的に一歩先へ進めるのです。自分の目と耳と脚で手に入れた情報は何より強い学習動機になり、大きな「やる気」につながります。まだこれという具体的な進路希望の見つかっていない人は、7月18日（土）実施予定の名古屋での「夢ナビライブ」への参加がおすすめです。

この夏には、不得意科目の克服が学習面での大きな課題です。さらに得意科目をいかに伸ばせるのが次のポイント。その一助となるよう、昨年同様、黒姫高原での二泊三日の学習合宿も用意されています。一年次より回数の増える模試の活用も大変に有効です。

「これじゃ二学年には夢も希望もないよ！」なんて言われないように、最後に「オーバー・ザ・レインボー」という歌を紹介します。これは昨年、英語のサイドリーダーとして読んだ「オズの魔法使」のミュージカル映画版のテーマ曲（主題歌）になった名曲で、主役のジュディ・ガーランドによって歌わ

れ大ヒットしました。今年の二学年のテーマ曲にしたいくらいの佳曲です。こんな時こそスマホの出番です！聴いてみましょう。希望に満ちた歌詞（易しい英語です）も味わってみましょう。
「さあ虹の彼方に、その一歩先へ！」

情報源と選択 2学年 PTA会長 春日 康志



娘宛に毎日のように届く大学案内の郵便を見ながら、「自分の時代とは違う」ということを痛感します。今ほど情報があふれていなかった時代に、自分がどんな情報を基に進路への思いを確かなものにしたのか…ふと思い返してみました。

「活字」（印刷物）からの情報はもちろんですが、直接心に響いたのは、

授業中に英語の先生がしてくれた学生時代の思い出話の雑談や、教育実習生との会話に出てくる「大学生生活」だったように思います。いろいろな話を直接聞くことで、「学びたいこと」とともに「行きたいところ」が決まっていきました。

今はまだ漠然としている夢を、字面だけの情報にとらわれず、自分の足で歩き、自分の目を見て、顔を見て話を聞き、より確かなものにしようとしている若い人たちを、大人として、親として、応援したいと思っています。

感じるままに 1学年 主任 巢山 尚人



先頃、入学当初に生徒から書いてもらった作文を読み返してみた。自分の夢や目標について書いたものだ。そこには目指す職業として「教師」「理学療法士」「公務員」「薬剤師」「医師」「建築士」などの単語が並んでいる。また具体的な職業は挙げてない者も、文武両道を目指したい、学習習慣をしっかりとりたいなどという内容を書いている。しかし…。

過日、第一回目の定期考査を前に学習時間調査が行われた。これは自分の学習時間を知ることが目的としているが、当然担任の目にも触れる。「頑張ってるなあ」と思える生徒もいれば、「えっ」と目を疑うような生徒もいる。ふた月前のあの作文は…。

三日間の定期考査が終わった。「偶然」の対義語として「必然」という語がある。こうした考査は勝負事と異なり、「必然の結果」が存在する。勉強した者としなない者との差は歴然。己の欲求に負けて、スマホなどというものに時間を費やしている者には厳しい結果が出ているはずである。「偶然」に期待するような愚か者はこの縣陵にはいないと思うが…。

さて、大事なのはこれから。同じ過ちを繰り返しながらいくのか、それとももう一度初心に戻って自らの夢や目標達成を目指すのか。

たかが10分されど10分。休み時間の過ごし方から再考せねばならない者が相当数いる。クラブとの両立を目指す以上、家庭学習の時間は当然制限される。では、どうするか。時間は有限、有効に。

ダイヤの原石を磨く時 1学年 PTA会長 井口 寿彦



この4月に入学された皆さん、いかが高校生活をお過ごしでしょうか。高校入学前に描いていたイメージと比較してどんな感想をお持ちですか。入学早々、応援練習を頑張っ

て乗り越え、真の県陵生として、勉強や部活にとそれぞれ充実した日々を送っていることと思います。高校生活の3年間はもちろん勉強も大切

ちょっと横道にそれますが

進路指導主事 石田 公里

「学習」以外のもの

「かつて受験に直接関係ないものをギリギリまでそぎ落とした結果、かえてって受験する力が弱くなってしまった。」先日、県内有数の進学校にお邪魔した際、当該校の教頭先生の言葉です。大いに同感できる点もあり、興味深く拝聴しました。大人は、進学校の生徒には学習以外のことは余計なことであるし、生徒らも勉強以外には興味も示さないだろうと考えがちです。

しかし話によると、生徒たちは世の中の出来事にも関心を持ち、そこにちょっとした「きっかけ」を与えれば想像以上に思いを巡らし、周りの社会との関わりによって更に深い考えに至り、自分の進路に対してもはっきりとした目標を持つことができるようになったとのことでした。

合格可能性を高めるとは

そのような可能性を本校の生徒も秘めているはずですが、大学に行き就職して、という漠然としたストーリーの序章に、大学入試が立ちはだかり、その可能性を見失いがちです。高校入試とは比べ物にならない困難な壁と、大

学に入れば後は楽園という勘違いの期待からか、とにかく「合格」を、それとできるだけ「苦勞せず」という意識が芽生えてくるようです。言い知れぬ閉塞感の中、無理からぬことかもしれません。多くの生徒はその甘い言葉を振り払います。しかし、そうではない生徒は合格のみが目標となり、入試とは関係ないことをそぎ落とし、合格の可能性のみを求めて、大切な教科を切り捨て始めます。

これは多くの場合幻想です。「のびしろ」が多く残っている教科を捨てて、スペシャリストが集う場での勝負になるのですから。本人が得意と言ってもその中では普通です。

確かに、不得意な教科を抱えながらの勉強は負担かも知れませんが、大学の勉強やその後続く社会生活で不得意に目をつぶり、やり過ごすことができるかといえばそれは無理です。

かつてある国立大学では1教科でも、上位10パーセントに入れば合格という入試を実施しました。究極の得意科目勝負の入試です。しかし現在はありませぬ。廃止の理由はおそらく、思うような学生が集まらなかったのでしょう。得意科目以外に問題があったかもしれません。得意科目以外に対し、自らの可能性を広げる学生が少なかったのではと推測します。

不得意科目にも果敢に挑戦を

大学側の負担が小さければ、もっと入試科目を増やしてもいい、少なくとも個別入試の科目以外の力もつけて欲しいと大学もそして、社会も期待しているのです。その証拠に人集めに苦勞しない有名私大の入試では個別入試で



は3科目でも、センター利用の場合は4科目5科目入試があります。できるだけ多くの多様な事を経験してきて欲しい、幹の太い学生が欲しいという大学や社会の本音の表れではないかと思うのです。

親としてできること

親として子供のためにできるだけのは事はしてあげたいと思うのは普通です。子供の前に立ちをはだかる障害は事前に取り除いてあげたいというのも親心でしょう。しかし、この瞬間も子供たちは経験の中から学び、自信という形で自らを育てているのです。

学習やクラブも含め簡単に答えのみを与えるのでは学びになりません。自ら課題を突き詰め、自ら答えを取りに行く姿勢こそが大事です。課題に対応していく子供の姿を尊重し、大人としても手を出す前に、その様子を見守ることが求められているのではと思います。弱い自分を真正面から受け止めることができる姿が見えたら、それはもう頼もしいお子さんの姿ではと思うのです。



大人の責任で

生徒指導主事 武居 正憲

警察庁の調査結果によると、SNSに起因する事犯の被害児童は、過去最多となっています。

SNSとは、プロフィールサイト（プロフィール）、ブログ、LINE、などです。（以下SNSと表記）10代のスマホの所持率が増加し、LINEなどの無料通話アプリが普及し、その影響でSNS内での「ID交換掲示板」による出会い系被害が大幅に増えています。

ID交換掲示板は、メッセージや通話で1対1のやりとりをする相手を見つけるサイトの通称で、ユーザーがIDを公開し、面識のない相手と知り合うことができるようになっています。これがネット上に多数存在しています。趣味や居住地が近い仲間を募集するための場ですが、「出会い系サイト」に類する売買春を想起させる内容や、18歳未満の書き込みも日常的に行われています。知り合った後、すぐに1対1の閉じた関係になり、出会い系サイトと同じだといわれています。

モバイルコンテンツ審査・運用監視機構（EMA）はこのようなアプリ内での投稿内容などを調査、次の2点を指摘しています。

- （1）個人情報の提供により、実際に会うことを前提に悪用されやすい。
- （2）異性との出会いを求める投稿や売買春目的の書き込みが削除されずに放置されている。

アプリのダウンロード時に年齢確認がなく、アプリ内にアダルトコンテンツなど青少年に不適切な広告が掲載されている例も目立ちました。

警察庁が実施した「SNSに起因する児童被害の事犯に関わる調査結果」によれば、次のような問題点が明らかになりました。

犯行の動機、手段は？

犯行動機（n=948）：児童との接触目的が9割以上
被害児童を選んだ理由は性交できそうだから
サイトへのアクセスはほとんどがスマホで

被害児童の実体は？

サイトの利用は「無料だから」が多いが、10%の児童は「援助交際できる」と考えて
被疑者と会った理由は主に「お金・品物を得るため」だが、7.4%の児童は性交目的
サイトへのアクセスはスマホ！

使用携帯電話の名義は？

1位：父親 2位：母親 3位：本人

保護者による指導状況

受けていなかったが5割以上
フィルタリングは9割以上が未加入

SNSの運営会社は、ネットパトロールの強化や18歳以下のID検索をできないようにするなどの犯罪防止対策に取り組んではいるが、様々な抜け道もあり完全な対策はできないのが現状のようです。

SNSに起因する犯罪被疑者の犯行動機の約7割弱が性交目的です。そして、そのサイトへのアクセス手段は被疑者・児童ともにスマホがほとんどです。

県教育委員会から「インターネットの世界であなたは狙われています～性被害に遭わないために～」というパンフレットが全生徒に配布されました。その背景には、前述のような現状があることをご理解ください。

保護者や学校は子どもがスマホを持つことの危険性を深く認識し、大人の責任で次のような対策をとることが必要なのではないのでしょうか。ご家庭でも、今一度スマホの利用について話し合っていただきたいと思います。

- ①購入時に親の責任でフィルタリングサービスの利用手続きを行う。
- ②スマホの名義を本人名義に変更する。年齢制限によりID検索を防ぐことが可能です。
- ③保護者や教員が、SNSの利用についての注意を根気強く行う。
- ④本人は、危険性を認識し、IDをインターネット上に公開しない。



長野県総合体育大会結果

5月下旬から6月上旬にかけて、県総体が行われました。
 中信を勝ち抜き、強豪校との対戦に多くの縣陵生が臨みました。結果をお知らせします。
 紙面の都合上、陸上、水泳、バトミントンは北信越大会以上の出場者のみとさせていただきます。

陸 上		
走幅跳	森本知隼	3位

水 泳		
自由形 50m	紙透はるか	3位
自由形 100m	岩原純子	1位
自由形 200m	岩原純子	3位
平泳ぎ 100 m	中坊みり	3位
	紙透はるか	6位
	柴田恵	7位
平泳ぎ 200m	中坊みり	2位
	柴田恵	4位
リレー 400m	(紙透はるか、柴田恵、中坊みり、岩原純子)	2位
メドレーリレー 400m	(玉川陽葉、中坊みり、岩原純子、柴田恵)	4位

バドミントン		
男子団体		3位
女子団体		3位
男子ダブルス	(曾根原和音、片平泰雅)	5位
男子シングルス	曾根原和音	優勝 インターハイ出場!
男子シングルス	片平泰雅	9位
女子シングルス	矢口実奈	5位

山 岳		
男子団体		優勝
女子団体		優勝

硬式テニス		
男子団体		4位

剣 道		
男子団体		ベスト16
女子団体		ベスト16
個 人	藤森滉平	1回戦

弓 道		
女子団体		予選敗退
女子個人	平林沙恵、中村葵	決勝進出

空 手		
女子団体 形		1回戦
女子団体 組手		1回戦
男子団体 組手		1回戦

卓 球		
男子学校対抗		2位
男子シングルス	中原元気	5位
女子学校対抗		ベスト8

バレ ー		
男 子		2回戦
女 子		1回戦

サッカー		
男 子		ベスト8

バスケット		
男 子		2回戦
女 子		1回戦

文化 部		
NHK 杯全国高校放送コンテスト長野県大会 研究発表部門 「お昼の放送改革」矢口岳		
第20回長野県高校生英語プレゼンテーション・コンテスト ビデオ部門 インターナショナル部		
		2位



活躍する縣陵生

陸 上 部

1年F組 森本 知隼 選手は、5月29日に松本平広域公園陸上競技場にて行われた高校総体県大会陸上競技女子走幅跳において、記録5m38cmで3位の成績を修め、北信越大会に出場し、5m55cmの成績で見事8位入賞をはたしました。



バドミントン部

6月6日～8日に信州スカイパーク体育館にて行われた高校総体県大会バドミントン競技において、学校対抗戦で男子団体3位(3C曾根原和音、3G西窪 稜、3F小澤友暉、3A浅井寛章、3G勝野裕介、2H片平泰雅、2G蜜澤尚大、1I土屋諒祐)・女子団体3位(3H倉科絵梨香、3B松島あゆみ、3F上嶋冬華、3G進藤柚乃)といった成績を修め、北信越大会に出場しました。
 また、男子シングルスでは、3年C組 曾根原 音 選手が優勝、京都府で開催されるインターハイ出場を決めました。



卓 球 部

5月28日～30日に長野運動公園体育館にて行われた高校総体県大会卓球競技において、学校対抗で男子団体2位といった成績を修め、金沢市で開催された北信越大会に出場しました。(3D丸山敦也、3B中原元気、3F手塚 真斗、3C古畑篤志、3A原修哉、3C百瀬敏晃、2E岡沢賢也)。
 また、男子シングルスでは、3年B組中原元気選手が5位に入賞し、北信越大会においても2回戦に進出しました。



山 岳 部

6月4日～6日に上田市湯の丸高原キャンプ場等にて行われた県大会において、学校対抗で男子団体優勝。2G高山博正、2H奥原直道、2H武井宏晃、1F小久保遼平君が学校代表として滋賀県で開催されるインターハイに出場します。
 女子も県大会、団体優勝、北信越大会においても優秀校として表彰されました。3D大槻莉恵、2H伊藤美優、2F服部由和、1A小澤紇さんが、同じく滋賀県で開催されるインターハイに出場します。



水 泳 部

縣陵祭中の6月27日～6月28日、諏訪市、すわっこランドで開催された県大会において、自由形、平泳ぎ、リレーにおいて、上位入賞をはたし、北信越出場を決めました。3F紙透はるか、2E岩原純子、2F中坊みり、2G玉川陽葉、1D柴田恵選手は富山県高岡市、富山市で開催される北信越大会に出場します。



放 送 委 員 会

3年H組 矢口 岳君は6月13～14日長野市勤労者女性会館しなのきで開催された第62回 NHK 杯全国高等学校放送コンテスト(第52回 長野県大会) 研究発表部門において、お昼の番組改革をまとめた「お昼の放送改革」でNHK長野賞を受賞しました。国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される全国大会に出場します。



県陵との不思議な縁(今が青春?)

専門幹兼事務長補佐 天野 学



県陵を卒業してかれこれ三十数年、自分の高校時代これといって皆様に申し上げられるものは何もない。中学時代サッカーをやっていたことで、サッカー部の故渡辺三郎先生が自宅まで来られて、入部を勧誘されたが、結局どこの部活にも入部しなかった。今思うと燃え尽き症候群だったのかな。高校時代の思い出は強歩大会が良かったこと。翌日、足が痛くて学校を遅刻したほどで、二度と長距離



離なんかやらないと決めたのに…。

さて、地元の大学に進学し、公務員を目指して一応勉強し試験に臨んだが、一年目は不合格。二年目は、試験会場が「県陵!」。自然と冷静に試験に臨めたこともあり、公務員の一步を踏み出すことができた。

次は結婚して二男一女に恵まれ、長男が幼稚園の時に中学時代のサッカー部の後輩からサッカーを勧められたことをきっかけに、二人の息子が県陵のユニホームを着て、高校サッカー選手権の予選会で同じピッチに立っている姿を見て、鳥肌が立つくらい身震いした。(現顧問の西村繁路先生に大感謝。)自分が県陵で果たせなかった夢を、息子たちがかなえてくれたと思った。

3つ目は私の妻が心臓発作により自宅の台所で倒れ救急車が来る間、県陵で救命救急の講習会を受けたばかりの二男が心臓マッサージを手際よく行い、その後

の妻の後遺症は全く無かった。本当に県陵に感謝です。

こうして、県陵との縁はより太くなり、あの苦手だった長距離も今では趣味となり、毎月マラソン大会で走り、サッカーも審判として関わっている。また退職までに県陵の職員として赴任できたこともつづく県陵との縁を強く感じ、年をとったけれど、今ようやく高校時代県陵で果たせなかったことを実践できている今が青春かなと感じている。



県陵百景 ~校長室~ 校長先生にインタビュー

校長 永原 経明



Profile

- ◆氏名…永原経明(ながはらつねあき)
- ◆年齢…57歳
- ◆出身…松本市(現在は塩尻市)
- ◆経歴…長野県の7つの高校を経験
 - ・教科は社会科(主に世界史)
 - ・部活動はバスケットボール、野球部の顧問を経験
 - ・大町北高校と岡谷東高校で校長を歴任、前任は長野県教育委員会で、参事兼心の支援室長(3月に制定された長野県いじめ防止対策推進条例の策定に関わる)
- ◆趣味…読書とスポーツ
 - ・最近は地域経済学の本を読んだり、テニスに打ち込んでます。

ますか?

物についてはありません。部屋から生徒の姿がもう少しみえるといいですね。(グラウンドで運動をしている姿とか)

——校長先生から縣陵生へ一言

縣陵での3年間が本当によかったというものにして欲しいと思います。勉強、部活動などに打ち込むとともに、いい仲間をたくさん作ってください。一生の友になります。また、失敗や挫折は自分を成長させてくれます。挫折するようなことがあって立ちあがることによって、たくましが身につき、成長を促します。

今年度から赴任された、永原校長先生に、お忙しい中沢山の質問に答えていただきました。

らしいの一言です。縣陵に赴任できて本当によかったと思っています。

——好きな言葉は何ですか?

艱難汝を玉にする(かんなん なんじをたまにす)。人間は、苦勞や困難を乗り越えることによって立派な人物になる、という意味。

——おすすめの本を教えてください。

「夜と霧」ヴィクトール・フランクル著と「きけわだつみのこえ」。

——校長室にあったらいいものはあり

——松本県丘高等学校の印象はどうですか?

生徒は当初より気持ちのいい挨拶ができて好印象でした。授業もしっかり受けており、放課後、部活動にも打ち込む姿はとてもうれしく思います。生徒会活動も自分たちでしっかり進めており、素晴

素朴なキモノ



思ったより実用的!!
革張いじゃなかった…

①お掃除は誰がしていますか?

3年D組(担任杉村先生)の素晴らしい生徒さんたち

②どんな時に生徒が校長室に来ますか?

清掃の生徒、表彰、生徒会関係の生徒が来室します。
※悩み事相談、学校についての直訴でも生徒の来室はウェルカムです。

③校長室の広さはどれくらい?

教室の3分の1くらいのひろさです。他校に比べると小さいですが、「これくらいで充分です。」と校長先生は言っています。

④校長先生のイスってどんなイス?

←こんなイス



生きる尊さについて考えたり、戦争の悲惨さについての理解を深めてほしいなあと感じます。

縣陵プールの七不思議



お話によると、伊藤先生が生徒であった昭和50年頃までは、浄化槽がなく塩素の粉を家庭科室で水で溶いてプールに撒いていたとのこと。プールサイドは、土手で草むらのような状態だったようです。

現在、プールは主に水泳部が使用しています。水泳部の皆さんが4月の

下旬にプール清掃を行い、5月の中旬にプール開きをし、当校での部活動を9月中旬まで行ないます。

体育の授業では、6月下旬～9月上旬まで使用しているそうです。

縣陵プールの七不思議

①更衣室がない！

プール用の更衣室がないので隣にあるテントや教室で着替えたり、水泳部の男子はプールサイドでお着替え!!

②深すぎて立てない！

浅い所で1.3m深い奥側はなんと1.7m

も？知らずに立とうとすると足がつかずに慌ててしまいます。ご注意ください。

③はしがない！

こんなに深いプールなのにはしがないので、プールから上がるのも一苦労らしい。

④もしかして25mない？

しっかり計測してないので数cm短いかも？水泳のタイムレースでは大きな違いかも

⑤水道が出ない？

老朽化で目を洗う水道は一度開くと止まらなくなるらしい！今では使う人もいないとか…

⑥トイレもない！

プール用のトイレがないので家庭科棟のトイレを使います。

⑦排水口が小さい？

排水管が細いのかプール掃除の時、水の減りが遅くて大変らしい。どこへ流れて行くのか誰も知らないとか…

こんな悪条件の中でも水泳部はハングリー精神で立派な成績を出しています。今年の活躍も期待したいですね。

